

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075600090
法人名	有限会社 三益
事業所名	グループホーム 田苑
所在地	〒 822-0101 福岡県宮若市福丸247-1 (電 話) 0949-52-0625

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成21年7月11日	評価確定日	平成21年7月22日

【情報提供項目より】(平成 21年6月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.5 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円		その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	なし				
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円		有りの場合 償却の有無	無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,100	円	

(4)利用者の概要(6 月 25 日現在)

登録人数		7 名	男性	名	女性	7 名
要介護1			名	要介護2		名
要介護3		5	名	要介護4	2	名
要介護5			名	要支援2		
年齢	平均	88 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	有吉病院 吉成歯科医院 福岡聖恵病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム田苑は近隣に派出所、消防署、市役所支所等のある旧市街地で、また居室から田園風景が見渡せる恵まれた環境に建てられた1ユニットのグループホームである。開所6年目になり、開所当初からの入居者や職員も多く、馴染みの関係を構築しているが、入居者の心身の状況の変化や新規入居者や家族の思いや意向をより具体的に把握したいと、職員の気づきを促すゆったりした対応の留意点3項目を職員の目が留まりやすい出勤簿の前に掲示している。既往症のある入居者には医療機関の受診支援で重度化を防止しているが、内服管理やケアのモニタリング・評価を家族に説明することで、理解や協力をお願いしている。ホームの庭や畑で採れた野菜をふんだんに使い軟らかく調理された食事を自力で摂取できるように支援しているため、全量摂取の入居者がほとんどで、協力医から何か工夫があるのかと尋ねられるほどである。自治会加入により、近隣住民の参加で防災訓練を実施したり、外部講師を招聘し開催している毎月の勉強会に近隣の介護家族の参加があるなど、地域との交流がすすみつつある。そして、同業者で発足した「GHわかみや」と市担当者、地域包括支援センターの連携で地域密着型サービスの周知の促進も期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価から、入居者の思いや意向を把握するために、日ごろから入居者や家族との関係を構築することや職員間の情報の共有、ゆったりとしたケアで気づきを促進することを全職員で話し合っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	外部評価について全職員に説明し、自己評価に取り組んでいる。
	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、委員名簿や会議録を整備している。会議ではホームでの行事や活動等の運営状況や外部評価結果を報告している。参加した家族代表より、入居者や家族の意向と職員の支援内容の食い違いがあるとの意見があり、全職員で話し合いをしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	年1回発行している田苑新聞で入居者の暮らしぶりを家族に伝えたり、家族の来苑時に入居者の状況を報告している。急変時や受診時には随時電話で報告している。協力医療機関に定期健康診断をお願いしている。預かり金の出納は職員2名で確認し、入金時は家族の確認や署名がある。管理者等は人権研修や権利擁護に関する研修に参加している。成年後見制度を活用している入居者もあり、制度を熟知している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、職員が地域の清掃活動に参加している。地域の祭りみこしや獅子舞・祈禱祭が巡行し、入居者も喜んでいる。通学路に面していることから飼われている犬やボランティアが丹精込めて育てた花をみるために、学童が立ち寄ることもある。毎月講師を招聘して開催している勉強会は4年目になり、参加した介護家族から熱心な質問等があるなど職員と共に学習している。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの方針に沿ったホーム理念を重要事項説明書やパンフレットに明記している。理念を実践するために、尊厳の尊重、自由な生活、プライバシーの確保、市民生活や残存能力の活用の5項目を方針に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎週のミーティング、毎月の勉強会で5項目の方針について職員と話し合っている。開所当初から就業している職員が多いため理念を共有しながら、介護計画に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、職員が地域の清掃活動に参加している。地域の祭りみこしや獅子舞・祈祷祭が巡行し、入居者も喜んでいる。通学路に面していることから飼われている犬やボランティアが丹精込めて育てた花をみるために、学童が立ち寄ることもある。毎月講師を招聘して開催している勉強会は4年目になり、参加した介護家族から熱心な質問等があるなど職員と共に学習している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について全職員に説明し、自己評価に取り組んでいる。前回の評価を活かし、入居者の思いや意向を把握するために、日ごろから入居者や家族との関係を構築することや職員間の情報の共有、ゆったりとしたケアで気づきを促進することを全職員で話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、委員名簿や会議録を整備している。会議ではホームでの行事や活動等の運営状況や外部評価結果を報告している。参加した家族代表より、入居者や家族の意向と職員の支援内容の食い違いがあるとの意見があり、全職員で話し合いをしている。	○	作成している運営推進会議実施規程に運営推進会議の目的や参加者の守秘義務、個人情報の取り扱いを明記することで、より実りある会議開催を期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の同業者で発足した「GHみやわか」の研修会に行政職員や地域包括支援センター職員の参加があり、意見交換をしている。地域包括支援センター職員が身体拘束や高齢者虐待防止について話をしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	管理者等は人権研修や権利擁護に関する研修に参加している。成年後見制度を活用している入居者もあり、制度を理解している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年1回発行している田苑新聞で入居者の暮らしぶりを家族に伝えたり、家族の来苑時に入居者の状況を報告している。協力医療機関に定期健康診断をお願いし、急変時や受診時には随時電話で報告している。預かり金の出納は職員2名で確認し、入金時は家族の確認や署名がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・意見箱を設置し、行政機関やホームの苦情相談窓口を重要事項説明書に明記している。年1会家族会を開催し、家族に意見を伺っているが、去年は5周年記念行事で食事会が行われている。家族代表が運営推進会議に出席している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当初から就業している職員が多く、入居者と馴染みの関係が構築されている。管理者は職員の勤務体制や交代に配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用に条件はない。雇用契約は取り交わされ、国民健康保険の健診等も活用して、定期健康診断を支援している。介護支援専門員等の資格取得を支援したり、暑気払いや忘年会、食事会でストレスを解消している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権学習会に参加し、毎月の勉強会やミーティングにて周知を図っている。身体拘束拘束虐待防止マニュアルを作成し、ベット柵の使用について、身体拘束に関する同意書を取り交わしている。外部から招聘した講師に毎年接遇に関する講話をお願いしたり、入居者対応の留意点3項目を、職員の目が留まりやすい出勤簿の前に掲示している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域の同業者団体であるGHみやわかの研修会や福岡県高齢者グループホーム協議会Fブロックの研修に参加している。また、毎月の勉強会に外部から講師を招聘し、接遇、高齢者の特性、感染症について学習している。職員の悩みなどは運営者や事務長・管理者が対応している。	○	毎年実施している学習内容に基づき年間研修計画の作成をお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	加入している福岡県高齢者グループホーム協議会や地域の同業者団体であるGHみやわかで開催される研修会や交流等に参加している。今回、GHみやわかの働きかけもあり、地域包括支援センターが中心となって、徘徊ネットワークが作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在2居室が空いていることから、いままでのように入居希望者には体験入居やお茶の時間の来訪等でホームに馴染んでいただく予定である。新規入居があった場合は、2人体制の夜勤で対応している。また、家族にできるだけ来訪していただくようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であり尊敬の気持ちを持ちながら支援しているが、言動の端々から感じられる入居者のプライドから学ぶことが多いと職員は話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式のアセスメントシートや基本情報表で生活歴や職歴の情報を収集している。特に職員の気付きを共有することを目標に掲げている。	○	職員の気付きが入居者の思いや意向の把握を促進ことを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の思いや意向を重視しながら、介護計画作成担当者や職員で話し合い、介護計画を作成している。介護計画には、本人の希望、総合的な方針、具体的介護内容が記載され、了承した家族の署名や捺印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の来苑時に3ヶ月毎のモニタリングや評価内容を説明し、家族の署名や捺印を整備している。見直した介護計画も家族に説明し、了承を得ている。	○	計画の実施、モニタリング、評価を介護計画書で家族に説明しているので、家族の意見は担当者会議等に整備されてはいるかでしょうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて、協力医療機関やかかりつけ医の受診を支援し、重度化を防止している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や各入居者の希望する主治医、眼科・皮膚科受診を支援している。医療機関との情報交換等を円滑にするために、運営者が受診に同行し、随時家族に状況を報告している。受診結果は医療受診ファイルで管理している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関する指針を整備し、老人の特性を記載した確認書を取り交わしている。先日、重度化した入居者の処遇についてを主治医、家族、管理者等で話し合い、入院に至っている。重度化や終末期の対応基準は主治医による「医療行為が必要」との診断を重視する意向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報利用目的を明記した承諾書を作成し、入居者および家族と取り交わし、玄関にも掲示しているが、個人情報に関する規程の整備がない。玄関に入居者の権利を掲げ、尊厳を考慮した声かけや対応を実践している。身体拘束虐待防止に関する研修に参加し、職員に周知している。	○	個人情報の保護に関する規程の整備やホーム内の掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて食事や入浴を支援している。ゆったりとした関わりで、入居者の思いを汲み取ること目標に掲げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の1日と15日はお赤飯にするなど、地域の風習を大切にしたいメニューが入居者に喜ばれている。入居者の体調に応じて下ごしらえをお願いしている。食材にホームの庭や畑で採れた野菜を使っていることや食堂前で栽培しているゴーヤを話題にしている。手作りマットや色彩を配慮した盛り付け等の工夫で全量摂取の入居者が多い。全職員が伴食し、こえ掛けや見守りで自力摂取を支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回入浴している。洗髪や入浴拒否者には声掛けを工夫しながら支援している。入浴で感染やかゆみが防止できることを話すこともある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	風船バレーをしたり、カラオケやビデオを楽しんでいる。トイレで使用するちり紙折りをお願いすることもある。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車イスの必要な入居者が多く、日ごろは苑庭の花壇や菜園の見学している。梅・藤・彼岸花等の花見にドライブで出かけているが、今年の桜の花見は車イスで近場に出かけている。家族が同行して講演会に参加した入居者もいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣の派出所、消防署、市役所支所等には理解や協力をお願いしている。職員の勤務体制によって玄関に施錠することもある。歩行が不安定だったり、頻尿のためトイレ回数多い場合は、室内センサーを設置し安全を確保している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年も8月に近隣住民3名に協力をお願いし、防災訓練を予定している。消防署がホーム前であるため協力を得やすい。火災防止マニュアルや役割分担一覧表、消火器を整備している。パック入りのお粥やスナック、クッキー等の食料品や飲料水を備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重や病状等に応じて食事は1日1,000～1,400kcalの摂取を支援している。水分をできるだけ摂取してもらいたいと、お茶ゼリーや紫蘇ジュースを手作りしている。摂取量は入居者ごとに記録している。咀嚼や嚥下がしやすいように採れたての野菜を柔らかく調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前やホーム周囲に季節の花が植えられ、今年も玄関にはカサブランカの花が飾られ、入居者や家族、訪問者の目も楽しませている。玄関には腰掛けて靴が履けるように木のベンチが設置され、正面のソファから庭や道路が見え、入居者のお気に入りの場所になっている。玄関や廊下には、花見のスナップ写真や来訪したボランティアのステージ写真、ホーム等で育てた花々の写真が掲示されている。食堂である共用空間の一角は畳の間になり、ステージに活用されている。空気清浄機の設置やアロマセラピーなどで防臭対策をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台、電動ベットが設置され、ベット柵に足を入れないようにと手作りのピンクの柵カバーがかけられている。自宅で使い慣れた馴染みの日用品や来訪する家族のための椅子が持ち込まれ、寛ろげる居室づくりを支援している。		